

平成27年度 第1回江別市消防委員会議事録

日 時：平成27年8月26日（水）

15：00～16：16

場 所：消防本部庁舎多目的ホール

出席者【敬称略】

消防委員会：	委員長	田村修一	
	副委員長	村田京華	
	委員	川岸裕子	
	委員	飯沼美智子	
	委員	有野正勝	
	委員	丸山博幸	
	委員	小山功	7名
消防本部：	消防長、次長、署長、警防課長、指令課長、消防課長、予防課長、救急課長、 江別出張所長、野幌出張所長、大麻出張所長		11名
事務局：	庶務課長、庶務係長、庶務係員		3名
			計21名

議事内容（消防委員会資料参照）

1. 開 会

庶務課長 それでは、ただいまから平成27年度第1回江別市消防委員会を開催いたします。次第に基づいて進めてまいりたいと思います。次第2、田村委員長様からご挨拶を頂戴いたしたいと思いますので、よろしく申し上げます。

2. 委員長挨拶

田村委員長 この度、委員長に就任いたしました田村でございます。日頃より、消防署員の皆さん、また、消防団員の皆さんにおかれましては江別市民の生命、財産、そして予防保全、これに関しましては誠心誠意身を挺して努力いただいていることに対しまして市民を代表いたしまして厚くお礼を申し上げます。

これから行われます消防委員会というのは皆さんご承知のこととは思いますが昭和35年10月に消防委員会条例が制定されまして、これに基づいて行われる委員会でございます。

昭和35年、この年と言いますのは、身近なものの出来事と申しますと日本で初めてのインスタントコーヒーが商品化された年です。また、今もお店で売っておりますふりかけののりたま、これもこの年に発売されました。台所用品といたしましては、今も皆さん全員使っているのではないかと思いますクレラップだとかサランラップ、これも昭和35年に商品化されたことになっております。条例

制定から今年で65年経ちました。この65年間、最近の消防年報を拝見させていただきますと、非常に内容が様変わりしてきております。大きく変わったものの一つは高齢者に関わるものの割合が非常に増えてきている。救急一つとりましても4%ずつ高齢者が増えているということですから、我々は今後、消防本部の活動は変わってくるのだらうと思っております。今、消防本部というのは火災予防活動や救急活動に非常に誠意をもってやっていただいて、ますます高齢化になると頼られるのだらうと私は思っております。また、かつて経験したことのない高齢化社会を迎えますから、今やっている防火活動から、私が思うにはこれからは個別訪問活動に段々シフトしていくのかなと思っております。

今回の消防委員会の新体制も、一番若いのは村田副委員長、そして私が最高齢で、非常に幅広い年齢層をもって委員会を構成しております。また、職業についても多種多様な経験者からなっておりますから、また違った意味で新たな2名の委員が交代になりましたので、また違った意見等も出るかもしれません。任期の2年間どうぞよろしくお願いいたします。

庶務課長 ありがとうございました。

今回の委員会に関しましては、江別市消防委員会条例第2条にございます審議事項に関しましては、市長より諮問事項を受けておりません事をご報告致します。

この後、次第3の「報告事項」に入りますが、委員会条例第5条の規定によりまして、委員長が議長となることとされておりますので、委員長の進行でお願いしたいと思います。

3. 報告事項

田村委員長 それでは次第の3、報告事項に入らせていただきます。

まず初めに、「(1) 市議会案件 (消防関連) について」のA、平成27年度 江別市一般会計補正予算について、事務局より報告をお願いします。

庶務課長 私から「A 平成27年度 江別市一般会計補正予算」についてご説明いたします。資料1ページの資料1をご覧ください。

1 補正予算についてであります。今年、市長選挙があり当初予算が骨格予算となっていたところあります。そのため、選挙後の6月に行われました第2回江別市議会定例会において補正予算が市全体で14億1,894万9千円が追加され、一般会計予算は江別市全体で460億5,184万9千円となりました。消防では、市長の選挙公約等の事項でありました「新たな女性消防団の編成」について補正予算を提出したものであります。

2 消防関係分につきましては、消防団に女性消防団員で組織する消防分団を設置するための経費として、231万円を措置し、消防費の総額は2億8,438万3千円となりました。

補正予算の主な内訳としてしましては、新たな任務として後方支援活動を行なうためのヘルメットや安全靴、防寒衣などの安全装備品や被服、分団旗作製のた

めの経費であります。

女性分団についての詳細につきましては、次の「イ 女性消防団員の分団化について」でご説明いたします。

説明は以上であります。

田村委員長 ありがとうございます。ただ今の報告につきまして、何か質問等はございませんか。

田村委員長 なければ私の方から一つ質問しますが、今回231万円の予算を組みましたが、これは消防本部からの要求予算額と一致しているのでしょうか。

庶務課長 231万円要求しまして、231万円満額予算要求どおりついているところがございます。

田村委員長 他にないようですので「イ、女性消防団員の分団化について」、事務局より報告をお願いします。

庶務課長 引き続き、私から「イ 女性消防団員の分団化について」ご説明いたします。資料2ページの資料2をご覧ください。全道で20番目の女性分団として、本年10月1日に設立予定をしており、現在事務を進めているところであります。

初めに本年8月1日現在の現在の消防団の現況であります。組織概要としましては、1団本部8分団で消防団員定数200名、消防団員数は、199名のうち女性消防団員につきましては、23名であります。

現在の女性消防団員は、消防団本部の所属となっております。女性分団設立後は、1分団増え、1団本部9分団であります。組織図につきましては、資料2中段をご参照ください。

女性消防団員で組織する分団化の経緯につきましては、1つ目として、平成24年から概ね20名以上の女性団員を継続的に確保できたこと。

2つ目として、女性消防団員は、平成3年10月に10名を採用、活動を開始いたしました。当初の活動は女性特有のソフト面を活かし、幼稚園や保育園における「防火紙芝居」や「施設の避難訓練」の支援を行ってまいりました。その後高齢者宅への「防火訪問」や高齢者施設への「防火慰問」など火災予防を主眼とした業務を行ってまいりました。

また、平成15年からは、市民からの要望が強い「普通救命講習」を開催する際に応急手当普及員の資格を計画的に取得し、指導を行ってきたところであります。現在も年間約60回開催される講習会に延べ約120名の女性消防団員が年間約2,000名の市民に対し指導を行っているところであります。これらの活動が一定のレベルに達したこと。

3つ目として女性の幹部団員を登用することにより、独自性の発揮が可能となり、個々の使命感の確立や責任感の醸成が図れること。

4つ目として、女性ならではの新たな発想に基づく活動や任務が行うことができることなどがあります。

分団化後の新たな任務として避難所等における後方支援活動として、高齢者への介護ケア、乳幼児を持つ女性への先輩ママとしてのサポート活動、災害活動の後方支援などがあります。

また、女性の幹部を登用したことによる平常時の女性消防団活動の充実・強化や災害時などの各種支援活動など積極的な活動の遂行などを行って参ります。

説明は、以上であります。

田村委員長 説明ありがとうございました。それでは、今の説明につきまして委員の方からご質問はございませんか。

小山委員 4の(1)避難所等における後方支援活動についてですが、東日本大震災以降、要援護高齢者の受入先となる福祉避難所の設置が江別市で課題となっております。今年5月に市内14か所の施設が福祉避難所に認定され、私の勤務する福祉事業所も2か所が認定されました。被災時に高齢者の方が自宅から大きく環境が変わる避難所に来た時に健康管理が大きな課題となります。その時に女性消防団員の方々が後方支援活動ということで配置されますことは、例えば救急搬送等という事態が生じた場合、消防との細やかな連携が図られると期待されます。しかし、福祉避難所の開設では、介護員等の確保に問題を抱えておりました。今後、道内で大規模災害が起きた時に、近隣市町村とどのように連携体制を確保するかが課題となっております。消防署や消防団においても、このような事態が生じたときに近隣市町村との連携体制をどのように考えておられるのかお聞きします。

庶務課長 避難所に関しましては大規模災害時で女性ならではのきめの細かな対応ということで女性団員だけがそこに行くわけではなくて、職員、その他に男性の消防団員の他に女性消防団員を派遣しようと考えております。ただ、女性同士の方が話しやすい部分だとか介護しやすい部分がありますのでその辺を重要視して行っていきたいと考えているところであります。また女性団員の中には看護師の資格を持っていたり、介護士の資格を持っていたり幼稚園・保育園の先生、いろんな資格を持っていたりします。その中で消防団の団員を教育しながら災害現場で使えるような形で今検討しているところでございます。また、後の方で質問がありました近隣との応援のからみですけれど、消防職員につきましては北海道広域応援協定というのがあります。何かございましたらお互いに出動しあうということになっております。今、お話しにありました消防団の方はその内容を検討しまして来年、再来年には石狩管内でそういうことができるようにということで検討を進めているところでございます。以上です。

田村委員長 他にご質問等はございませんか。

村田委員 今現在の消防団の現況について二つほど質問させていただきます。現在の定数200人のうち、199名という形になっておりますが、残りの1名について現在募集を行っているのかどうか、また、男女別の選択はあるのかどうかということが一

つ目と、もう一つが今現在女性の消防団員数 23 名ということで約 11.56%となっております。この、江別市の女性団員の比率というのは他団体の市町村における消防団の女性の比率と比べてどの程度になっているのかお聞かせ願います。

庶務課長

私の方からお答えいたします。まず、消防団員の入団につきましては消防団条例第 3 条により決まっているところでございまして、入団資格として 18 歳以上ということがまずあります。その中で女性消防団に関しては定数が 200 人ということでございましたが、どの分団が何名ということは今のところ定めていないところでございますが、概ね 23 名を目途にということで進めているところでございます。それで、応募等がございましたら、先ほどお話しいたしました各分団の人数のところがありまして、居住地のところで分団員になりたいということがありますので、そのへんのところを考慮しながら採用等を分団の方で検討しながら進めているところでございます。それと今お話しにありました、女性消防団員の割合についてですが、11.56%となっておりますが、国の方では女性消防団員の割合を 10%以上になるように努めて下さいということで、今、お話しが進んでいますが、当市においては 200 人の内の 23 人でございますので、10%を超えているところでございますが、昨年 10 月 1 日現在で女性消防団員の割合というところが北海道 207 の消防団がございまして、その中で女性団員を採用しているのが 141 団でございまして、68.1%となっているところでございます。その中で女性消防団員の割合というのが 7.46%ということでございますので、当市の消防団につきましては割合的には多くなっているところでございます。なお、先ほどもお話ししましたけれども、全部で 207 団ある中で女性分団として分団化しているところは 19 分団、うちの分団が 20 番目の分団になるところでございます。それ以外のところは各分団に配置しているところも別にございますので、そこそこの地域によって少しずつ考え方が違うんだというところでございます。以上です。

田村委員長

ありがとうございました。他にご質問はございませんか。女性消防団員の分団化というのは、皆さんお持ちかと思いますが、今年の選挙の三好市長のリーフレットの一番最後に小さく載ってしまして、思い付いて追加して入れたのかなと思いましたが、そうでもないのですね。

次長

女性消防団員の分団化というのは、広く、女性の登用ということで三好市長の市政の一環の目玉ということでとらえています。リーフレットでは小さく書かれていますが、当初から強い意志でやるという指示がありました。

田村委員長

今、お聞きしましたのは先ほどの説明にもありましたが、他にも女性消防分団があるということで、他市との交流は今回入っているのでしょうか。というのは最初予算を聞いたのは運営費のところは装備でお聞きしましたけれど、女性同士なら交流も必要かなということでそこらへんまでお考えがあったのか、また、含まれているのかお聞かせ願います。

庶務課長　　今のご質問ですが、10月に佐賀県で行われます女性消防団員の活性化大会というのがございまして、本市消防団の方から参加する形になりまして、全国との交流も持てるような形となります。ただ、委員長からお話しがありました他の女性分団との交流ということですが近隣にはあるところとないところがありますので、そういうところを含めながら女性同士の女性消防団員同志ということで今後そのような交流も検討してまいりたいと考えております。

田村委員長　　ありがとうございました。他になければ次に進めていきたいと思えます。「ウ、消防車両の更新について」、事務局より報告をお願いします。

警防課長　　警防課長の内山です。私から報告事項「(1)のウ、消防車両の更新について」ご説明をさせていただきます。お手元の資料3ページ、資料3をお開き下さい。

現在、消防本部では平成4年度に旭川ガス株式会社様より寄贈を受け、救助工作車を消防署に1台配置しておりますが、当該車両は取得から22年が経過し、老朽化が著しいことから更新するものであります。今回、更新する車両の特徴としては従来と比べて車体のコンパクト化を図りながらも、資機材収納スペースの拡充やハイルーフキャビンの導入等により、車内作業スペースが確保されている等、災害活動の強化充実が期待されるところでございます。取得いたします車両につきましては、本年5月に指名競争入札を行い、札幌市にございます山崎自動車株式会社、こちらの会社が約1億800万円で落札し、6月の第2回市議会定例会の議決を得て売買に関する本契約を締結するものであります。また、車両の納期時期につきましては、来年3月の下旬を予定しており、従来と同じ消防署に1台配置することとなっております。報告につきましては、以上でございます。

田村委員長　　説明ありがとうございました。委員の方から何かご質問はございませんか。

なければ私から質問しますが、資料には記載されていませんが、従来どおり本部に配置されるわけですね。この車両は特殊車両だと思うんですが、乗員6名以上ですが、まず何名乗られるのかと、同じ職員が乗られるのかこの2点、いかがでしょうか。

警防課長　　この車は平均では5人、また、はしご車等が出動する場合には、乗り換えといつか3人と2人という形で2台ペアで運用したりすることもございます。

田村委員長　　ありがとうございました。他のご質問がければ次に進めていきたいと思えます。「(2)平成27年度消防学校派遣・免許取得等の状況について」、事務局より報告をお願いします。

庶務課長　　「(2)平成27年度消防学校派遣・免許取得等の状況について」ご説明いたします。資料4ページの資料4をご覧ください。

消防学校派遣・免許取得につきましては、消防10か年アクションプランの中の1つの柱として人材育成を掲げました。今までも計画的な資格取得を進めて参りましたが、平成26年から10年間で約40名の職員が退職いたします。退職者が有していた資格、免許などを整理して業務に支障が出ないように計画しているところであります。

(1)につきましては、消防職員に対する教育として北海道消防学校への各教育課程の派遣予定であります。

(2)につきましては、今年度から新たに消防団員に対する教育として3つの課程に派遣する予定であります。

(3)につきましては、救急救命士の資格を有する職員に対する教育であります。救急救命士の行なうことができる医療行為が拡大され、北海道消防学校において講習を受講後、各医療機関のご協力のもと、実習を実施しているところであります。

(4)につきましては、免許、消防、救助関連の資格、講習であります。先程説明したとおり今後10年間で約40名の退職者があり、大型自動車第1種免許につきましては、今年度から8名の資格取得を計画しております。

また、第2級陸上特殊無線技士につきましても消防車両28台及び携帯の無線機24台を保有していることから平成26年度から4年間毎年8名の免許取得を計画しているところであります。

救助関連の資格につきましても計画的に取得を進めて参りたいと考えております。

以上で説明を終わります。

田村委員長 説明ありがとうございました。委員の方から何かご質問はございませんか。
なければ私から質問しますが、私はガス事業者ですけれど、退職までに20の国家資格をとれと言われます。ただ、民間ですから上は税理士までガス以外にもたくさん取らなければならないんですけれども、資料の4番のところ、いつも思っていたんですけれども、消防署員の取る資格というのは、何かこれだけ範囲があるという定めがあるのでしょうか。

庶務課長 資格のついている定めというのは緊急時の対応ということがございまして特に定めはございません。ただ、免許に関しましては大型免許だとか船舶の免許だとか先ほど言いました救命士の免許だとかそれぞれ免許がないと運用できないものがございしますので、それにつきましては優先的に免許取得を進めているところでございます。

田村委員長 ガス屋の立場ですと一つ懸念がありまして、来年4月から電気の自由化ということで誰でもが電気に参入します。当社も発電所は設けることはできませんが、よそから電気を買って、再来年には江別市に送り込みたいというところで、ガスも電気の資格がいるようになってまいりました。そこで、今、消防署との関係でガス漏れ火災は当社が緊急車両で出動しておりますけれども、まだ定かではないの

ですが、これからうちのお客様以外出れなくなるかもしれないという懸念があって、その場合、都市ガスの場合は我々が出ますけれども、プロパンの場合、間に合わない場合は署員の方が現地に対処してもらいますがそこは資格がいる範囲になっておりまして、当然ホットラインで5分以内に電話いただけますので、他のお客様が使っていても当社の方で処理させていただいておりますので、今後そのへんのところが少し冷たくなるのかなというところで、資格のところでガスが必要になるのかなと。それから今はありませんけれども水素の時代が来ますのでこれが非常にやっかいで水素の資格というのは特段ないんですけれど高圧ガスが入っていますのでそこらへんもやっぱり消防署が先に行きますんで処置の時に足りない資格がでてくるかもしれないなどはいつも懸念しております。今現在ハイブリット自動車が相当走っていますからあれについては高圧ガスとか電気講習会でやたら水かけたらいけませんよと習われると思いますがこれからはやはり水素自動車が出てくるんだろうなとその前に今言ったプロパンのところは非常に深くややこしいところをごさいますして誰でもいじれるわけではないのでこれはもし確認できれば今後消防の資格の一つに高圧販売技師だとか液化石油設備士だとかこの二つのどちらかがあれば配管いじれますのでそういうことがお願いできればなと思っています。今、消防学校で教えることがなくなりましたので、学校行った時は完全にホース切ってしまえだとか、万能ばさみで切ってしまった方がいいよという講習をさせていただいたんですけれど我々の出番が半分なくなってきたのかなと懸念しておりましたので資格のところで今一度足りないものがあれば補充されるようお願いしたいと思っております。以上で(2)のところを終わらせていただきたいと思っております。

田村委員長 他にご質問等なければ、「(3)平成27年度「全国少年防火クラブ交流大会」の参加について」、事務局より報告をお願いいたします。

予防課長 予防課長の伊藤でございます。お手元の資料5ページをお開き下さい。本日は江別市の民間防火組織の団体として日頃地域の防火防災活動や当消防本部の火災予防に貢献されている上江別第一自治会青少年消防クラブ及び女性防火クラブの活動の状況等についてご紹介させていただきます。

初めに本年8月初旬に徳島県で開催されました、全国少年防火クラブ交流大会に伴い、江別市から上江別小学校の6年生が所属する上江別第一自治会青少年消防クラブ員の5名がこの大会に参加したことからその実施結果等についてご説明申し上げます。

この大会の趣旨は、総務省消防庁主催で平成24年度から将来の地域防災の担い手の育成を図るため少年消防クラブ員が消防の実践的な活動を取り入れた訓練等を通じて他の地域の少年消防クラブ員と親交を深めるとともに、消防団等から被災体験、災害教訓等への備えについて学ぶ内容のもので、全国規模の開催は本年が初めてでありました。この大会に参加できるのは各地域の少年消防クラブであり、予選などを競って選抜されたクラブではございませんが、総務省から案内

があり、自主的な参加申し込みを経て参加承認されるものでございます。北海道代表としては、当市を含め6団体、全国では46団体282名の参加規模となったものでございます。大会の内容につきましては、各クラブ対抗による消防の資機材を用いた障害物リレーや炊き出し訓練、避難所体験訓練ですが、特に中学生のクラブ員も参加しているリレーのポイントで全国46団体中13位となり、暑い中事前に夏休み期間を利用して上江別小学校で事前訓練を行い、その成果が現れたものでございます。資料6ページをご覧ください。先にお話ししました当消防クラブは昭和57年に設立され、組織変更を経て、当初女性クラブ員のみだけでしたが、後に子供たちも少年消防クラブ員として加え、地域の自治会、上江別消防団、学校等と連携し、火災予防キャンペーンや防火夜回り、清掃奉仕活動等地域に密着した防火防災活動にも貢献されている自主防災組織でございます。資料7ページをご覧ください。昨年、日本損害保険協会が主催する、第12回小学生のぼうさい探検隊マップコンクールに当青少年防火クラブ員が、徒歩で上江別地域全てを調査し、上江別地域の防災マップ、分かりやすく申し上げますとハザードマップというたぐいのものですけれども、それを所定の応募要領に則って作成し応募したところ、全国2267点の作品から見事佳作に入選されました。この佳作につきましては100点でございます。この作成の時期は偶然にも昨年の断水時に重なったもので子供たちにも防災の意味を大きく理解する足掛かりになったのではないかと改めて考えているものでございます。現在、市内には防火クラブ関係は22の組織が存在し約2400名のクラブ員が活動しているものでございますが、この、裾野が大きく広がり各地域から防火防災活動の機運が高まるよう、今後も消防部として地域と深い関わりを持ちながら、安心安全なまちづくりができるよう、女性や青少年のこういった活動を支援していくものでございます。以上でございます。

田村委員長 説明ありがとうございました。委員の方から質問等ございませんか。
なければ私から質問させていただきますが、一つは防火クラブの数は増えているのでしょうか。

予防課長 数につきましては、現在、幼稚園から防火クラブという組織が存在しているんですけど、先ほどご説明した小学生の防火クラブは江別と野幌地域に一つずつあるのですけれども将来的には大麻の地域にも少年の消防クラブをつくれたらいいなと考えておまして、現在地元の自治会に相談しております。相対的にはそんなに増えている状況ではありません。以上です。

田村委員長 もう一つですけれど、今の件に関して22の組織があつて約2400人ですから1組織あたり約110名になるのですけれど、どこが巨大組織になっているのですか。

予防課長 上江別につきましては、第一自治会女性防火クラブは365名、少年防火クラブ員が25名登録されております。今申し上げた数字につきましては、江別市内の民間防火組織として最も大きい団体でございます。以上です。

田村委員長 もう一つ質問させていただきます。資料 6 ページの下段の主な年間活動については上江別自治会の消防クラブの活動のことをいっているのでしょうか。

予防課長 こちらにご紹介した活動につきましては、上江別地域の防火クラブの活動でございますけれども、他にも他団体も同じような活動をして地域の防火防災活動に貢献されているところでございます。

田村委員長 ありがとうございます。
ご質問等がなければ「(4)平成27年度消防関係主要年間行事予定について」、事務局より報告お願いいたします。

庶務課長 「(4)平成27年度消防関係主要年間行事予定について」ご説明いたします。
資料8ページの資料6をご覧ください。

平成26年度第2回の消防委員会で平成27年度の上半期の行事予定をご報告したところでありますが、日程等が未定の行事もありましたので改めて今後の消防関係の行事予定の内容についてご説明いたします。

9月は、お手元にリーフレットを配布しておりますが、5日(土)に救急医療週間記念行事として市民を対象とした「救急医療教室」が消防本部多目的ホールで10時から開催されます。内容としましては、市内開業医の循環器科の医師による記念講演や心肺蘇生法などの実技指導などが予定されております。

また13日(日)には、「第20回防火ふれあい大麻」が消防署大麻出張所で14時から開催されます。各種体験コーナーやはしご車の試乗が実施されます。

25日(金)には、消防関係物故者慰霊祭を消防本部慰霊碑前で実施いたします。

10月は、1日に先程ご説明いたしました女性分団設立事業を行います。

10日には、江別市総合防災訓練を今年は江陽中学校で9時から開催されます。

15日から31日まで秋の全道火災予防運動が実施されます。

11月は、千葉県で行われます「第5回緊急消防援助隊全国合同訓練」に職員を1名派遣いたします。

12月は、1日に消防歳末特別警戒出陣式を消防本部多目的ホールで実施致します。

1月は、6日に平成28年江別市消防出初め式を開催いたします。

2月は、上旬に第2回の消防委員会を開催予定であります。

なお、※印の3行事につきましては、消防委員会委員長にご案内する事業でございます。

以上で説明を終わります。

田村委員長 説明ありがとうございました。今の説明につきまして、委員の方から質問等ございませんか。

4. その他

田村委員長 なければ次第の4. その他に入りますけども、全体をとおして委員の方から何か質問等ありませんか。

私から一つ個人的なお話を申し上げたいと思いますが、資料4で消防学校派遣・免許取得等で救急救命士に対する教育というところで、東徳洲会病院の方に派遣されております。たまたま私の娘夫婦が東徳洲会病院にいたりいなかったりしているのですが、たまたまいるときに江別市消防署の方が研修に来られました。鼻負するわけではありませんが非常に熱心だったと娘婿の方から報告がありました。現地では一生懸命やっておりますのでご安心下さい。

二つ目については先ほどの清掃の件、なぜ清掃にこだわるのかと言うと、私共のタンクがある8丁目通りを時たま清掃させてもらっています。ビールの缶がたたくさん落ちています。道路が広いから夜休憩して飲まれて、さめて朝変えられるのかなと解釈していますが、道路は非常に汚されています。そこで委員の中に元中学校校長先生の川岸委員がいらっしゃいますけど、学校では難しいですか。

川岸委員 難しいということはないと思います。大麻東中学校ではやってなかったような記憶がありますけども、その前の石狩中学校時代では石狩浜清掃というのを組んでいましてゴミ拾いをしていました。石狩浜については貴重な植物もありますのでそういう勉強だとか、環境とゴミということでかなり取り組んでいました。あと一般教諭時代ですけど、大麻中学校時代はJRCという青少年赤十字という活動がありましてそのクラブでボランティアを募って清掃活動をしていましたので、学校でそれぞれ取り組む気力があればいくらでもいろんな活動で使えると思います。PTAの皆さんに協力いただいて体育祭の前だとか環境整備とかお願いしていました、その時に子供達も入って一緒にやっていました。その他、部活動の子供たちがボランティアで取り組んでいました。

田村委員長 もう一つあるのですが、前回、飯沼委員の方でいい質問をされてたんですけど、救急の時に子供のアレルギーの話で注射みたいの打てるかどうか、孫ができてひどいアレルギーなんですよね。そろそろ幼稚園に行く時期なんですよね。あの時救急隊員は打てないということで終わっていたんですよね。

飯沼委員 エピペンですね。保護者の方からお預かりして幼稚園では対応することはできません。それは親とのやりとりです。強いアレルギー症状を持つお子さんを園でお受けしたときに、うちでそういう症状が出ないようにこういうものを使いますという、そういう話は園として受けることはできます。

田村委員長 119番通報して救急隊員が行ったときは園で打つんですか。

飯沼委員 はいそうです。

田村委員長 その他、委員の方から何かご質問等ありませんか。

有野委員 救急救命士の処置としてエピペンを使用することはあるのですか。

警防課長 エピペンを処方されているお子様については基本的には先生方や親が使用するのですが、救急救命士も実際に現場に行った時にはエピペンを使用することはできます。

田村委員長 アレルギーは自分が小さい時にはなかったんですけど、非常に多いということがわかり、大変な時代になったなと思います。
その他、委員の方から何かありませんか。

有野委員 「今年の小麦の状況」について説明あり。

田村委員長 他になければ最後に田中消防長にお聞きしたいことがあります。公表できる範囲でよろしいのですが、江別市の消防行政の中で今一番問題だと思われることがあれば消防委員の方に教えてもらいたいのですが。

消防長 自分が一番課題だと考えているのは昨年からの第6次江別市総合計画の中で今後の10年間を進める中で消防について組織、救急、火災予防この3本柱に今後進めていこうと昨年計画をもって今後10年間進めていこうという話になっています。その中でいままで整理できなかった組織の部分とか人材育成、それと各個別の車両の整備計画等、具体の計画を体系的に整理させていただきました。大きく今課題となっているのは、将来に向かって方向性とする部分といたしまして、石狩振興局管内の各消防本部で整備している通信指令台があるわけですけど、10年後また更新するときになったらそれぞれの自治体で何億もかけて整備することになりまして、将来的には指令業務を兼ねて指令台を石狩振興局管内で一つまとめてできればいいという思いが石狩振興局管内各消防本部であります。この10年後を見据えた中で、今、消防本部に指令台があり、職員がおりますけれども、例えば札幌の消防局に職員を派遣して、119番通報を札幌の消防局で一括して受けて、江別市の方に指令を出すという形の指令業務の共同化はできないのかということを検討していかなければならない時代です。それは今、札幌市消防局が中心となって検討委員会を立ち上げてまして研究的な段階で検討していく入り口になったということがございますので、まだまだ各消防本部の中で検討していかなければならない部分がたくさんありますので、それが大きな課題となっているというふうに考えます。

もう一つは全国的には大規模災害、自然災害が多発しております。昨年、広島県で発生した土砂災害の時にも職員の緊急消防援助隊等を出動させているんですが、あまりにも規模が大きすぎて職員隊だけでは間に合わないということで地元の消防団が地元を離れて広域的に多岐に渡って他県にまたがって活動する消防団の活動がございました。国の方では今、消防団の広域的な応援を進めようという考えです。北海道としてはまだ、実際に消防団の広域応援はやっておりませんが、石狩振興局管内若しくは道央圏の中で消防団の広域応援も一つの課題になり、将来、広域応援をするような形になっていくのではないかなというふうには考えております。それも、北海道消防協会という会がございまして、札幌地方支部の中で今後検討していきましようという話にはなっています。今後10年間の方向性を見ますと、今お話ししましたとおり二つの大きな課題があると思います。全国的にも地域の連携、他市町村との連携とかそれも含め、消防の広域化がどん

どん進んで行く時代で、道内でも十勝の消防も今回一つにまとまりますが、広域にはならなくてもこういう行動は今後の消防の大きな流れになっていくのではないかなというふうに考えます。以上です。

田村委員長　ありがとうございます。突然の質問で申し訳ありません。もし他になければこれから閉会に入らせていただきます。

今回、委員会に出席されました消防職員の皆さん、また委員の皆さん、貴重な意見交換、ありがとうございました。今回は報告事項ということで委員会を開かせていただきましたけれども、意外と消防行政も進行形で言えるお話だったので感謝申し上げます。これにて議長を解任させていただきます。今日は本当にありがとうございました。

5. 閉　　会

庶務課長　　田村委員長、大変ありがとうございました。以上をもちまして、平成27年度第1回江別市消防委員会を閉会いたします。なお、次回開催は2月頃を予定しておりますので、日程が決まり次第ご案内申し上げます。

本日は、どうもありがとうございました。